

niponica

Discovering  
Japan

にほにか

no. 22



特集

東京400年の物語

niponica

# にっぽにか

no. 22

contents



日本語で「日本」を表す時の音「にっぽん (nippon)」をもとに名づけられた「にっぽにか (niponica)」は、現代日本の社会、文化を広く世界に紹介するカルチャー・マガジンです。日本語版の他に、英語、スペイン語、フランス語、中国語、ロシア語、アラビア語の全7カ国語版で刊行されています。

特集

## 東京400年の物語

- 04 東京、再生する都市の力
- 08 巨大都市・東京は400年前にはじまった
- 10 浮世絵でめぐる江戸・東京
- 12 伝統の技を現代に
- 14 100年に一度の都市開発に迫る
- 18 数字でみる東京の今
- 22 召し上がれ、日本すき焼き
- 24 街歩きにっぽん大島
- 28 ニッポンみやげ風鈴



上／渋谷駅前のスクランブル交差点。渋谷駅は1日に300万人を超える駅利用者であふれる  
写真提供=Getty Images  
左／1950年の渋谷駅前。路面電車が行き交う  
写真提供=毎日新聞社

表紙／夕暮れの東京都心を望む。ひとときわ高くそびえるのが東京スカイツリー。  
写真提供=Getty Images

no.22 H-291031

発行／日本国外務省  
〒100-8919 東京都千代田区霞が関2-2-1  
<http://www.mofa.go.jp/>

特集

# 東京400年の物語

2020年の東京オリンピック・パラリンピックへ向けて、世界中から注目されている東京。  
江戸開幕以来400年の歴史をもち、つねに人が集まり続ける  
巨大なパワーに満ちた東京を、さまざまな角度から紹介する。

# 東京、 再生する 都市の力

戦争や自然災害など、  
時代によるさまざまな変化を  
経験しながらも、  
つねに再生、発展してきた  
巨大都市・東京。  
20世紀以降は、10年単位で  
劇的な変化を遂げているその姿を、  
写真で比較してみる。

## 100年の時を経て

下の古写真は、今から約110年前の明治37年  
(1904)に、上空にあげた気球から撮影。日本最  
初の航空写真であると伝わる。中央手前に整然  
と建物が並んでいるのが当時の銀座。中央奥に  
は現在と変わることなく、皇居の森が広がって  
いる。左手前に三角形に広がる建物群は新橋駅。  
現在の写真を見ると、建物が上へと伸び、広い  
範囲に街が広がっていることがわかる

(古写真は明治37年〔1904〕。写真提供=日本カメラ博物館、Getty Images)



# お台場 Odaiba



江戸時代の末（19世紀半ば）、鎖国していた日本は西洋諸国から開国を迫られていた。その際の防衛基地として築かれたのが、東京湾内に今も残る、砲台の島・台場だった。今ではそのさらに沖側に埋め立てられ、テレビ局やショッピングビルの並ぶ街となっている  
 (古写真は昭和30年〔1955〕。写真提供=毎日新聞社、アマナイメージズ)

# 新宿 Shinjuku



現在では、日本一の乗降客数を誇る新宿駅。古写真は、その新宿の大正時代（1912～26）の駅前風景。馬車が通り、路面電車が走っていた新宿駅西口は、1991年には都庁が移転し、東京の行政を支える街ともなっている  
 (古写真は大正12年〔1923〕。写真提供=新宿歴史博物館、アマナイメージズ)

# 銀座 Ginza

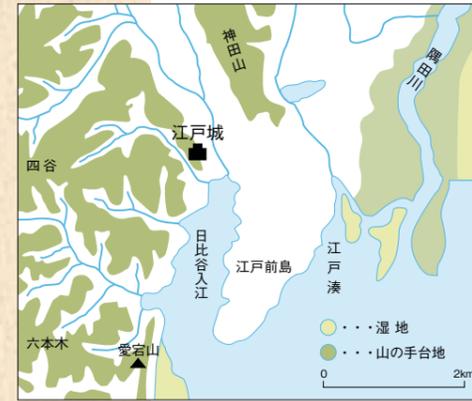


400年前から庶民の娯楽場だった浅草は、浅草寺の門前町として、隅田川沿いで栄えた。大正12年（1923）に起きた関東大震災や第二次世界大戦によって、壊滅的な被害に遭うが、みごとに復興。2012年には隅田川対岸に新たに東京スカイツリーができて、川の両岸で観光を楽しむ人が増えている。写真は兩岸をつなぐ吾妻橋を渡る人々  
 (古写真は大正12年〔1923〕。震災で崩れた吾妻橋。写真提供=毎日新聞社、名取和久)

# 浅草 Asakusa



17世紀には銀貨を鑄造する場所だった銀座。明治時代（1868～1912）以降、百貨店が建ち並び、老舗や高級店が店を構える東京一の商店街となってきた。20世紀後半に入り、世界の有名ブランド店が進出し、日本の銀座は世界の銀座へとさらにグレードアップ。近年も新しいショッピングビルが次々にオープンしている  
 (古写真は昭和37年〔1962〕頃。写真提供=中央区立京橋図書館、アフロ)



1590年

現代の地図はP.16を参照

1636年



左/家康が入城した1590年頃の江戸。江戸城のすぐ南から海が広がっていた。地図中央、江戸前島の先端が現在の銀座エリアにあたる  
 右/1636年頃の江戸。入り江の埋め立てが進んでいる。内濠、外濠はほぼ完成し、神田川も現在の流れに近い形で整備されている 作図=尾黒ケンジ



左頁/江戸時代初期(17世紀初め)の江戸城と街の様子。城の周囲にはすでに内濠が複雑に張り巡らされ、その周りに大名屋敷が配されている。手前は現在の日本橋。橋の上を大勢の人が行き交い、当時の繁栄がうかがえる。「江戸図屏風」(17世紀)、所蔵=国立歴史民俗博物館  
 左/写真は現在の皇居内、内濠に架かる二重橋  
 写真=高橋宗正

# 巨大都市・東京は400年前にはじまった

林立する高層ビル、張り巡らされた交通網、都心に点在する緑地。その多くは江戸の町に起源をたどることができる。江戸の町が後の東京になったのだ。

談話 ● 岡本哲志

1603年に江戸幕府を開幕する徳川家康(1542~1616)が江戸入りしたのは1590年のこと。当時の首都・京都から約500km東にある江戸は、雑木林と湿地が広がる田舎でした。家康はさっそく江戸城の整備と江戸の町の建設に着手します。まず、縦横に船が航行できる堀割の開削を進めました。現在の皇居がある江戸城一帯は、入り江

の奥に位置していましたが、(皇居と東京駅の間に広がるオフィス街・丸の内や、皇居のすぐ南に位置する日比谷界隈は海でした)、その入り江を埋め立てます。さらに山を切り通してつくった新たな水路に神田川を付け替え、隅田川に通しました。

こうした大工事の末、江戸城を取り囲むように内濠が巡らされます。その周りには敵の侵攻に備える防御ラインとして外濠が、全長12kmにわたって整備されました。堀割は、江戸の町が拡大するための仕組みでもありました。当時、徳川将軍家と主従関係にあった三百もの武家(大名)が江戸で任に当たるために、幕府はその広大な屋敷を堀割や街道沿いに配置しました。大名屋敷は江戸の土地の7割を占めていたといわれています。堀割の周囲

には大名屋敷の町がいくつも形成され、江戸の町はますます膨らんでいきました。

1654年に西の台地から引いた玉川上水が通水すると、外濠から内濠、神田川、日本橋川へと水が一気に巡り、最終的に海へ注ぐ水の流れが作りだされました。50年前に家康が構想した壮大な都市計画が、世代を超えてここに完成します。以後、江戸は「水の都」として栄え、百万都市に発展していきました。

長年の歴史をもつ京都に代わり、なぜ江戸が3世紀にわたって天下の城下町たりえたのか。理由はいくつもあるでしょうが、この土地がもともと持っていた「器の大きさ」もそのひとつです。家康はその地勢を見極め、江戸を水の都とするグラウンドプランを描きました。現代では考えられない大胆な構想と、それを実現した人々のパワーに、現代人は驚かされるばかりです。

17世紀の地図と照らし合わせると、東京の街が江戸の遺構の上に成り立っていることがわかります。高速道路は、堀割を埋め立てて建設されました。外濠をなぞるように走っているのは鉄道や地下鉄の線路です。大名屋敷の広大な敷地は、官公庁や学校、公園などの用地になり

ました。明治神宮や新宿御苑も、かつては大名屋敷だったのです。都心部に林立する高層ビルの多くは大名屋敷の跡地に建てられています。丸の内や六本木などの大規模な開発も、もとをたどれば大名屋敷に行き着きます。未開発だった海浜の町は400年を経て世界有数の大都市に変貌しました。その基礎となっているのは、家康が構想した江戸の町です。現在の東京を歩けば、さまざまな場所で江戸の名残を見つけられるでしょう。



岡本哲志(おかもと・さとし)  
 1952年東京都生まれ。法政大学工学部建築科卒業、岡本哲志都市建築研究所主宰。専攻は都市形成史。都市形成史家、博士(工学)。東京の都市形成史をさまざまな角度から40年以上調査、研究を続けている。

# 浮世絵でめぐる 江戸・東京

好奇心旺盛な江戸っ子たちは、暇を見つけては物見遊山に出かけた。  
花見に祭、風光明媚な景勝地、人気の観光地はいつも大賑わい。  
それは現在の東京も変わらない。  
江戸の人気スポットを広重の浮世絵でめぐる。

浮世絵提供●亀戸・上野・両国・御茶ノ水＝山口県立萩美術館・浦上記念館  
浅草＝公益財団法人東洋文庫  
風景写真提供●亀戸＝亀戸天神社、両国＝墨田区、浅草＝浅草寺、御茶ノ水＝大西みつぐ

## Kameido 亀戸

春の梅に秋の菊。亀戸天神は昔から花の名所として人気があった。なかでも初夏の藤は江戸で一番とされ、池の周りが紫の花で彩られると人々は縁台に腰掛け藤見を楽しんだ。「学問の神様」としても有名で受験の時期には多くの学生が訪れる  
歌川広重「亀戸天神境内」



## Ueno 上野

上野公園一帯は、江戸時代（17～19世紀）、将軍家菩提寺である寛永寺の敷地だった。その一角、不忍池を見下ろす高台にあったのが「月の松」。美しい円形は植木職人が造形したものだ。風流人たちはこれを満月に見立て、月見としゃれ込んだことだろう  
歌川広重「上野山内月のまつ」



## Ryogoku 両国

東京の夏の風物詩、隅田川花火大会は、1733年、8代将軍吉宗の治世に始まった。川面に屋形船が浮かび、大勢の見物客が岸辺に押し寄せる風景は今も同じ。吉宗は庶民のために隅田川河畔に桜を植えたが、300年を経た現在、こちらも都内有数の花見スポットとなっている  
歌川広重「両国花火」



## Asakusa 浅草

浅草寺は1400年近い歴史をもつ東京最古の寺。その雷門から仁王門（宝蔵門）を望む。江戸時代には、庶民の娯楽場としても賑わった。現在も東京を代表する観光地として、大勢の観光客が訪れる



歌川広重「浅草金龍山」



歌川広重「昌平橋聖堂神田川」

## Ochanomizu 御茶の水

手前は中央線御茶ノ水駅近くに現在も残る昌平橋。右手の坂を登れば聖堂（現湯島聖堂）に出る。この付近の神田川は山を切り通して掘削された。深い谷に出現した人工の渓谷は、江戸城の近くにながら自然を味わえる景勝地として親しまれた



左/インテリアを切子のモチーフで統一したラウンジ。複雑な造形が生み出す光の陰影が美しい  
 右上/ラウンジのカウンターには、堀口さんが一枚ずつ模様を刻んだオブジェが照らされる(東急プラザ銀座 キリコラウンジ) 写真提供=Nacasa&Partners Inc.  
 右下/菊花文をあしらった器。手に持ったとき、液体を注いだとき、光にすかしたときなど、暮らしの場面に合わせて表情を変える



# 江戸切子 Edo Kiriko

## 伝統の技を現代に

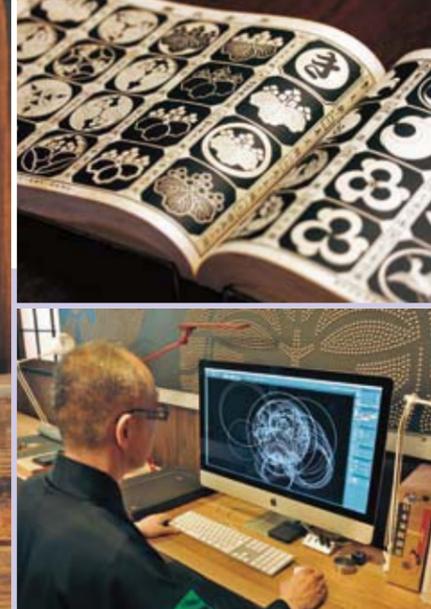


1976年、東京生まれ。国外での作品発表にも積極的に取り組んでいる。「江戸切子の魅力を多くの人に知ってもらいたいです」と堀口徹さん

白を基調とした工房に作業台が整然と並ぶ。堀口徹さんは台に座ると、円盤式の砥石にコップを押し当てた。回転する砥石にふれたとたん、表面の緑色がみるみる削り取られ、内側からガラスの透明な輝きが現れる。  
 カットガラスの一種である江戸切子は、東京に伝わる伝統工芸だ。鮮やかな色彩と華やかな模様で知られる。そのなかであって、堀口さんの作品は異色だ。余分な装飾をそぎ落とした造形は一見シンプルだが、繊細で緻密。複雑な模様を下描きなしで刻む技巧は、まさに職人技だ。  
 洗練された作風は、業界外からの評価も高い。ホテルのインテリアや、アクセサリなど、異業種とのプロジェクトも多く手がけている。  
 従来のイメージを超える作品で江戸切子の世界に新風を吹き込んできた堀口さん。だが、意外にもその視線は過去に寄り添っていた。  
 「本質を見極めたかったら歴史を学ぶべき。時間があれば昔の江戸切子について調べたいと思っています」  
 新進気鋭の切子作家は、今日も新たな伝統をガラスに刻んでいく。



左/家紋の焼き印をほどこした枡。中段右の枡の左面は日本政府の桐紋、右面は徳川家の葵紋 右上/代表的な紋を集めた「紋帳」 写真提供=波戸場承龍 右下/パソコン上に描かれた無数の円。選ばれた弧だけが残され、紋をかたちづくるラインになる



工芸の分野でも江戸の文化は色褪せることなく、現代に受け継がれている。  
 先人の技と心意気を守りつつ、新たな感性で伝統と向き合う現代の職人を訪ねた。

写真●伊藤千晴

# 紋章上絵

Monshou Uwae

家紋とは先祖代々、その家に伝わる紋章のこと。家柄や血統を表す印であり、着物や身の回りの品につけて目印とした。その紋を手描きで着物に描き入れることを紋章上絵という。波戸場承龍さんは、祖父の代から3代続く紋章上絵師。インテリアや商品ロゴに紋の意匠を取り入れるといった新しい試みに積極的に取り組んできた。デザインにパソコンを導入したのもそのひとつ。  
 「紋の線は円の弧でできています。非常に数学的で、パソコンと相性がいいんですよ」  
 パソコン画面に無数に引かれた円と円の重なりが、新たな線を生む。先端技術を駆使しているが、同時に、波戸場さんの紋は日本の伝統的な美意識をよく表している。「伝統と新しいものを融合したとき、どんな化学変化が起こるか。それを考えるのが楽しいんです」  
 日本人にとって家紋は少々格式ばった特別な存在だ。それを日常生活に溶け込んだものにしたい、と波戸場さん。伝統を受け継ぎつつ、時代に合った新しい家紋のあり方を模索する波戸場さんの挑戦は続く。



専用の竹製コンパス「分廻し(ぶんまわし)」を使って紋を描き入れる。波戸場承龍さんの創作現場には、昔ながらの繊細な手作業と、先端のデジタル技術が共存する

# 100年に一度の 都市開発に迫る

目次でも紹介した東京の巨大ターミナル駅のひとつ、渋谷駅周辺では、100年に一度ともいわれる再開発が進行中だ。再開発を機に、人が主役となるまちづくりを進める渋谷の未来に迫った。

取材協力●東京急行電鉄株式会社 写真●名取和久



渋谷 Shibuya 2017

右・右頁／右は現在の渋谷駅前。右頁上は2027年の同じ場所の未来予想図。超高層ビルが建つとともに、スクランブル交差点のある西口駅前が整備され、安全で快適な街が実現する。超高層ビルの屋上には屋外展望施設も  
図版提供＝渋谷駅街区共同ビル事業者

常に新しいファッションや流行を生み出し、近年ではIT企業が集まる都内有数のオフィス街ともなっている渋谷。さまざまな顔をもつこの街では、現在駅周辺で7つの開発プロジェクトが進行し、2020年までに4棟の超高層ビルが完成予定。日本のクリエイティブ産業をさらに活性化させるため、新しいビジネスやカルチャーを生む人材が集まる街を目指している。

なかでも大きく変わるのが、駅周辺の動線。これまで9路線が乗り入れ、地下5階から地上3階まで各線のホームが分散して、迷路ようになっていた構内は、JR埼京線と東京メトロ銀座線のホームが移動し、現在よりもスムーズな移動が可能になる。地下深くから地上のビルへの移動も大幅に改善し、小さな子供を連れた人や、お年寄りなどにも安全で快適な空間へと変わっていく。

東京には渋谷のほかにもさまざまな魅力的な街がある。そのなかで渋谷を「日本一訪れたい街にしたい」というのも、現在のまちづくりのテーマだ。20世紀半ばから渋谷

のまちづくりを主導してきた東京急行電鉄（東急）・都市創造本部の山口堪太郎さんが語る。

「渋谷駅から一駅ほどの距離には、原宿、青山、代官山、恵比寿といった流行に敏感な若者たちに人気の街が揃っています。そこまで楽しく歩けるように、官民が連携して渋谷川沿いに遊歩道を整備したり、街の中間に、人がくつろげる広場のある施設を設けたりして、より広い地域で“渋谷圏”を楽しんでもらう計画を進めています」

超高層ビルが建ち並ぶだけでなく、水や緑があふれ、歩いて楽しく、居心地の良い街を目指す渋谷。それは街の主役が、ビルから人へと移っていくことにもつながるはずだ。さまざまな年齢、国籍、職業、趣味をもった人々が訪れたいと思う街には、多様な価値観があふれ、新しい文化や産業が巻き起こる。次の100年へ向け、新たなエネルギーが集積する街へ。渋谷の未来が見えてきた。



渋谷 Shibuya 2027



上／東急で渋谷のまちづくりに関わる山口堪太郎さん（左）と亀田麻衣さん  
左／駅に近接するビルの屋上に展望スペースを設置。屋上を全面的に活用したものは、日本最大級の規模となる  
図版提供＝渋谷駅街区共同ビル事業者

# 水害を防ぎ、 渋谷ならではの安全を

水や緑の空間を復活させるために、渋谷川を中心とした整備を進めている渋谷。しかし、谷地形の底に位置する渋谷では、水への対策が喫緊の課題だった。近年は「ゲリラ豪雨」と呼ばれる、1時間あたり50mm以上の強さの突発的な豪雨が発生することがあり、そのたびに、谷底の駅前では対応に追われていた。

対策として東口駅前の地下で建設中なのが、集中豪雨の際に街の浸水被害を軽減する地下貯留槽。東急の都市創造本部で、貯留槽をはじめとする渋谷駅街区の土地区画整理事業を統括する森正宏さんが整備の概要を語る。

「まず駅前の地下を流れている渋谷川の流れをずらし、地下広場を整備します。さらにその下の地下25mという一番深い場所に、約4000m<sup>3</sup>の雨水を貯留できる貯留槽を建設しています。地下鉄の駅や渋谷川、ビルに囲まれた場所にあるここに、豪雨時の雨水が溜まり、地下街の浸水被害を防ぐ仕組みとなっているのです」

毎日約300万人以上が利用する渋谷駅の機能をストップさせずに工事するには、場所によっては終電から始発の間の2時間ほどしか作業ができず、緻密な工程管理が必要になる。世界有数の巨大ターミナル駅だからこその制約にも負けず、今も工事は進められている。

現在進行中のこれら再開発プロジェクトは、2020年の東京オリンピック・パラリンピックまでの整備をいったん目標にしながら、すべてが完成する予定は2027年。その時の渋谷は、さらに世界中から注目される街となっているはずだ。



上/広大な貯留槽の内部を見上げる  
森正宏さん  
下/渋谷駅前ではビルの建設が進められているが、その地下でも人々の生活を守る重要な工事が進んでいる



## 東京マップ 2017

特集で取り上げた  
東京の名所を確認しよう



- ① 浅草
- ② 上野
- ③ 上野桜木
- ④ 亀戸
- ⑤ 両国
- ⑥ 御茶の水
- ⑦ 銀座
- ⑧ 皇居(旧江戸城)
- ⑨ 新宿
- ⑩ 渋谷
- ⑪ お台場

# 下町コミュニティ再発見!

写真●名取和久 写真提供●上野桜木あたり



昔ながらの木造家屋が今も点々と残る住宅街。その一画の路地を入ると、修復された3軒の日本家屋が建ち並び、井戸を囲んで、地域の人たちがくつろぐ風景が広がっている。ここは、近年オープンした「上野桜木あたり」という名前の複合施設。1938年築の日本家屋が店舗やイベントスペースとしてよみがえり、新しいコミュニティ空間が生まれている。

第二次世界大戦の空襲によって東京の街の多くが焼失するなか、この地域は奇跡的に被災を免れ、いまでも木造建築の商店や家屋、寺院が点在している。「上野桜木あたり」でも、昔ながらの造りを活かし、お店と工房と住まいを、路地と座敷でつなげることで、地域の人や、街歩きで訪れる人が同じ空間で憩うことができる。ここでは、暮らしに密着した食文化、生活文化を支えるために、マルシェなどのイベントや、茶道やヨガなどの教室も開かれ、日々、新たな交流が広がっている。



上部中央/路地を入ると、右手と右奥、そして左奥に3軒の日本家屋があり、それぞれ店舗やイベントスペースとして使われている  
下3点/井戸を囲むようにして、地域の子どもや、お年寄りまでがふれ合いを楽しむ。日本家屋の中にはパン屋も併設されている

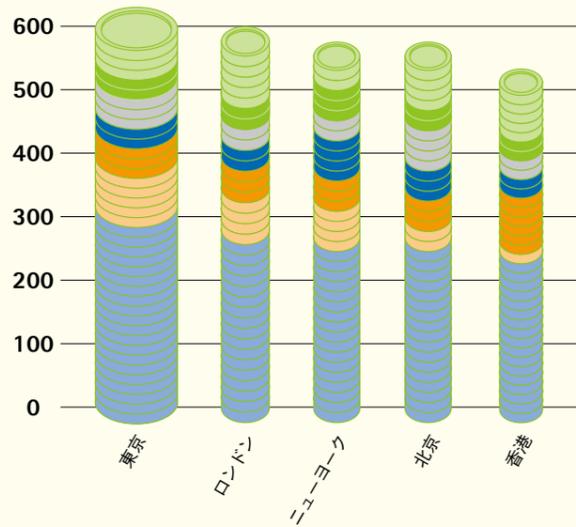
# TOKYO NOW

## 数字でみる東京の今

### 巨大経済都市としての東京

世界第1位の人口を誇る首都・東京。巨大都市東京には、人だけでなく、モノ、情報などあらゆるものが集まり、巨大な経済が日々動いている。

### 世界の都市の経済ランキング

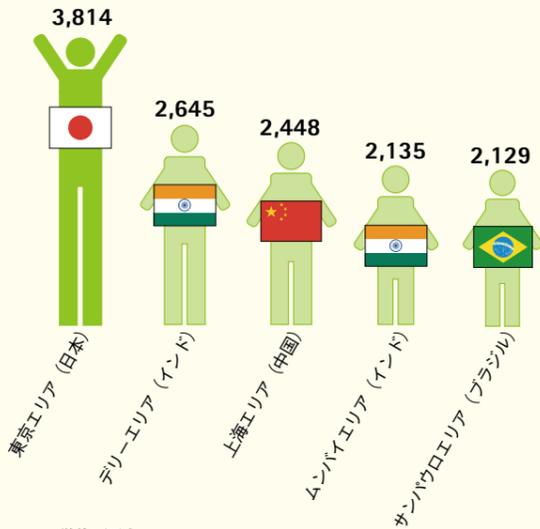


- 経済
- 市場の規模
- 市場の魅力
- 経済集積
- 人的集積
- ビジネス環境
- ビジネスの容易性

単位/森記念財団都市戦略研究所が算出したスコアによる

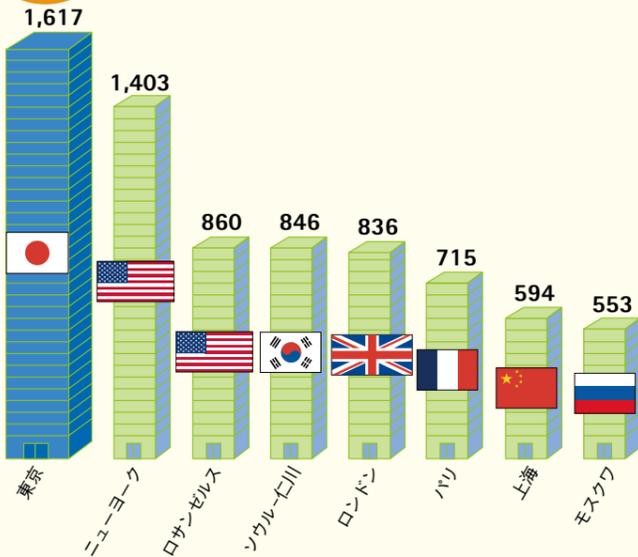
出典/「世界の都市総合力ランキング2016」(森記念財団都市戦略研究所)  
"Global Power City Index in 2016"  
(Institute for Urban Strategies, The Mori Memorial Foundation)

### 世界の都市圏人口比較



単位/万人  
出典/"The World's Cities in 2016" (United Nations)

### 世界の都市別GDP比較



単位/10億US\$  
出典/"Global Metro Monitor 2015" (Brookings Institution)

### 便利で安心な都市

高密度な鉄道網が張り巡らされ、都心の大部分へは駅から徒歩で行くことができる東京。警察官が24時間体制で勤務する日本独特の交番などにより治安がよく、安全性は海外調査機関の評価も高い。イギリスのMONOCLE誌では3年連続で住みやすい都市1位を獲得し、フランスのミシュランガイドでは星を獲得した店数は東京が世界一だ。

### 住みやすさランキング

3年連続  
世界1位

出典/"MONOCLE JULY/AUGUST 2017" (Win Content AG)

### 安全な都市

世界1位

出典/"Safe Cities Index 2015" (Economist Intelligence Unit)

### 東京都の交番の数

日本1位  
1,084  
施設  
(駐在所を含む)

出典/平成27年警視庁統計  
統計表 第五表

### 新宿駅の1日の平均乗降客数

約3,420,000人  
世界1位

出典/Guinness World Records

### 東京都のホテル・旅館客室数

約149,000室

出典/"グラフィック東京の産業と雇用就業2017" (東京都産業労働局)

### 東京都の飲食店の数

約84,000店

うち、ミシュランの  
星付きレストラン数

227店  
世界1位

出典/"平成26年経済センサス基礎調査" (総務省統計局)、  
"ミシュランガイド東京2017"

# アンテナショップで 全国の名産に出会う

東京にしながら全国の名産に出会えるのが、各都道府県のアンテナショップ。街歩きをしながら、日本全国を巡る小さな旅を楽しもう。

写真●伊藤千晴



## 京都 Kyoto

### 西陣織

京都・西陣で織られる高級絹織物。何色もの糸を使った華やかな模様があるが、糸や織りの違いにより、種類はさまざま

## 青森 Aomori

### 津軽塗

あおもり北彩館  
https://www.hokusaikan.com/  
つややかな漆の表面に描かれた、優美で複雑な紋様が特長。見た目が華やかなのはもちろん、丈夫で実用性が高く、日常使いの食器として愛されている

## 岩手 Iwate

### 南部鉄器

いわて銀河プラザ  
http://www.iwate-ginpla.net/  
吸い込まれそうな美しい黒は錆物(いも)ならではの。絵柄や細かな紋様がほどこされているものも多い。南部鉄瓶でわかした湯は口当たりがまるやかになるという

## 島根 Shimane

### 和紙手まり

にほんばし島根館  
http://www.shimanekan.jp/  
手まりは全国にあるが、松江の手まりは素朴で温かみがある。出雲の民芸和紙でつくったまりに刺繍(ししゅう)をほどこし、仕上げに花のちぎり絵をあしらっている

## 広島 Hiroshima

### けん玉

ひろしま  
広島ブランドショップ  
TAU  
http://www.tau-hiroshima.jp/  
若者を中心に世界で人気を集めているけん玉。その歴史は古く、起源も諸説あるが、現在、親しまれている形は、1919年に広島県廿日市で生まれた

## 山口 Yamaguchi

### 萩焼

おいでませ山口館  
http://www.oidemase-t.jp/  
茶道の茶器として発達した萩焼は、薄いオレンジやベージュなどの淡い色が特長。表面の細かいひびの効果が使い込むほど味が出る

## 沖縄 Okinawa

### 琉球ガラス

ぎんざ  
銀座わしたショップ  
http://www.washita.co.jp/  
カラフルなガラスの中に浮かぶ気泡は、戦後、ビールやコーラの空きビン溶かして再利用した名残。明るい色彩は沖縄の自然を連想させる

## 香川 Kagawa

### 丸亀うちわ

とくしまかがわ  
徳島・香川トモニ市場  
http://www.tomon-y-ichiba.com/  
竹(愛媛)、和紙(高知)、のり(徳島)、材料はすべて四国産。職人が一本ずつ丁寧に仕上げたうちわがつくる極上の風は日本の夏に欠かせない

## 秋田 Akita

### 大館曲げわっぱ

あきたふるさと館  
http://www.a-bussan.jp/shop/tokyo/  
杉の薄板を曲げてつくられたわっぱ(木製の木箱)は、見た目の美しさ、殺菌・調湿などの実用性を兼ね備えている。弁当箱に使えば食欲が増すこと間違いなし

## 福島 Fukushima

### 会津絵ろうそく

にほんばし  
日本橋ふくしま館 MIDETTE  
http://midette.com/  
花の絵柄が多いのは、冬、花の代わりに仏壇に供えたことから。芯に蠟をかけては乾かし、また重ねるという昔ながらの工程でつくられる

## 石川 Ishikawa

### 九谷焼

くたにやき  
いしかわ百万石物語・江戸本店  
http://100mangokushop.jp/  
最大の魅力は鮮やかで華麗な絵付け。赤、黄、緑、紫、紺青の5色を基本にした色使いは濃厚で強い印象を与えるが、ふだんの暮らしにもよく映える

# すき焼き

和牛を使った人気のごちそう

写真●小原孝博 協力●人形町今半 上野広小路店



「肉も鮮度が大切。肉の準備はお客様にご提供する直前に」と青木勝利調理長

和食のごちそうの中でも一、二人気争う料理「すき焼き」。豚肉や鶏肉、魚を食材にしたものもあるが、ごく薄く切った牛肉のロース肉やモモ肉を使用することが多く、和牛をぜいたくに食べられるのが人気の理由だ。

食卓で熱源にのせた鉄鍋の前に、調理しながら食べる一種の鍋料理。しかし、調理法には「割下」と呼ばれる調味液をあらかじめ用意しておく関東風と、焼いた牛肉に砂糖と醤油を直接からませる関西風の二つの食べ方がある。いずれも、香りづけの長ねぎは例外として、主役の牛肉を最初に調理することが肝心だ。好みの焼き加減に牛肉に火が通ったら、すぐにあらかじめ溶いておいた生卵につけて食べる。その後、鍋に入れる野菜や豆腐といったザク（具材）は、牛肉から溶け出た脂と旨みを含

み、絶妙な味わいになっていく。東西の流儀の差は、源流の違いという説もある。関西風は農具の鉄製「鋤」に野鳥や獣肉をのせて野外で焼いて食べた「鋤焼き」という料理から発展したのに対し、関東風は江戸時代末期（19世紀半ば）の開港後に、横浜で誕生した煮込み料理「牛鍋」がそもそもの起源だという。いずれも牛肉を食べる食文化が庶民の間でも一般化するのには明治時代（19世紀後半）以降で、現在の「すき焼き」が確立したのは大正時代末頃（20世紀初め）といわれている。

150年近くの歴史を経て、今も和食のごちそうに君臨するのは、日本の畜産農家のたゆまぬ努力によって、美味しい和牛が提供されているから。すき焼きは、濃厚な旨みをもつ和牛を、さらに美味しく食べるために洗練されてきた料理なのである。

## 作り方

- 1 鉄鍋に割下（醤油、砂糖、だし汁などを合わせた調味液）を入れ、ふつふつと沸いたら牛肉を入れる
- 2 好みの焼き加減で牛肉を取り出し、長ねぎ、しいたけ、しらたき、豆腐などの具材を入れる
- 3 追加で肉を入れながら煮込み、調理しながら食べていく



上／追加の肉は、ザクを片側に寄せてきたスペースに。肉を入れる時は必ず割下を足す  
左／専門店では和牛肉の品質で人気が決まる。専任の目利きが仕入れる特上ロース肉（2人前）

次頁／肉は火が通りすぎない程度に鍋から取り出す。溶いた生卵をつける人が多いが好みで





街歩き  
12  
にっぽん

東京のビッグアイランド

# 大島

東京都は、本州のほかに伊豆諸島、小笠原諸島など、13の有人島からなる。その中で最大の島である大島は、三原山という活火山をもつ自然あふれる島だ。高速船に乗れば1時間45分で到着できるこの島で、もう一つの東京を体験してみよう。

写真●小原孝博



上／東西約9km、南北約15kmの大島は自然の宝庫。さまざまなアクティビティが楽しめる写真＝アマナイメーجز  
 右上／外輪山から三原山を望む。緑の濃い部分は、1986年に溶岩が流れた跡  
 右上から2番目／目の前に海が広がる絶景の温泉、元町浜の湯  
 右上から3番目／大島近辺の海は、暖流の影響で、さまざまな海中生物と出会う  
 写真提供＝グローバルネイチャークラブft.海侍  
 右下／伊豆大島北部に位置する秋ノ浜遊泳場はダイビングスポットとして人気が高い





地層切断面。150万年前からの噴火の連続によってできあがった地層が、一周道路の開通によってその姿を現した。600m以上の長さは圧巻だ



大島西部の元町から北部の野田浜まで、海岸沿い約5kmのサイクリングロードは、初心者にも人気のコース



左・左上／旬の魚を島唐辛子醬油に漬けて握る「べっこうずし」。島唐辛子醬油は店や家庭でそれぞれの秘伝がある。「今日はメダイ。うちは港に上がったばかりの新鮮な魚を使うから、漬け時間は短いよ」と港館のご主人  
右上／波浮（はぶ）港は、1920年代から1960年代半ばに観光客と漁船の乗組員で賑わった。今はそれらの歴史を味わえる旅情にあふれている  
右下／漁船から上がった魚はすぐに出荷の準備。写真はカサゴ



高速ジェット船はレインボーブリッジをくぐり抜け、滑らかに進む。横須賀港や房総半島を後にすると「大型生物の生息域」との船内放送が流れる。イルカが回遊する海域で、マッコウクジラが見られたこともあるという。大島は伊豆諸島最大とはいえず、東西約9km、南北約15km。車で一周して2時間はかからない。島民は約8300人と普段はのんびりした時間が流れるが、港に定期船が入港すると、観光客や島民、ビジネス客などで賑わう。夏は海水浴客、冬は「伊豆大島椿まつり」を目指した観光客でさらに人出は増えるが、ほかの時期は、釣り客や、ダイビング、シュノーケリングといった海のレジャー客

が多いようだ。近年は「活火山の島」そのものの自然を楽しむ旅人も増えた。古くから島民が神様としてあがめてきた三原山をじっくり歩くハイキングがその一つだ。噴火口一周のコースは1998年に開通、2010年には「日本ジオパーク」（地球活動の遺産を見所とする公園）にも認定された。認定ジオガイドに同行してもらえば、火山や溶岩のこと、動植物について詳しく解説してくれ、より深く楽しめる。車でアクセス可能な山頂口近くの展望台から約1700年前にできた広大なカルデラと三原山を見渡せ、後方の北西方向には天候条件がよければ海越しの

富士山を見ることもできる。三原山の噴火口まで、さらに45分ほど足を伸ばせば、直径約300m、深さ約200mの壮大な噴火口はもちろん、南に点在する伊豆諸島や、北東の房総半島、北西の伊豆半島と富士山を順に眺めながら歩くという貴重な体験ができ、まさに地球を歩く気分が味わえる。島の魅力をより味わうならば自転車で一周することをおすすめしたい。島の南側には溶岩性の黒砂の浜や断崖絶壁、地層切断面など、火山活動が作り上げた風景が目の前に広がり、大島が火山の島である、ということを実感できる。近年は自転車ロードレースも開催され、国内外から参加者が集まる。本格的なロードバイクを持ち込み、高低差400メートル以上の一周道路に挑戦する強者も増えてきたというが、レンタサイクルでのんびりと海

沿いの自転車道に行くだけでも楽しめる。ひと汗かいた後には、宿や町営の温泉も待っている。いたるところで目にする樹木が、島民の生活に欠かせなかったヤブツバキだ。防風林になるほか、実からは油がとれ、江戸時代天保年間（1830～1844）には「椿油」が大島の特産品と記録された。現在も自生するヤブツバキは約300万本といい、冬の開花期には赤い花が島じゅうを彩る。ヤブツバキの油にはオリーブ油以上のオレイン酸が含まれるとして、近年再び脚光を浴び、椿油を使った天ぷらや、椿油ドレッシングを和えたアシタバのサラダも人気。もちろん季節ごとに黒潮がもたらす新鮮な海の幸が食卓の花形であることはいうまでもない。刺身は、ピリリと辛い島唐辛子を漬け込んだ醬油で食べるのが伊豆諸島の伝統だ。



左／ヤブツバキの実を粉砕し、椿油をつくっていく  
左中／ヤブツバキは日本固有種。  
右／ツバキの花つみをする際の伝統衣装に身をつんだ女性たち  
下／椿油、椿の花のジャム、石けんなど、ツバキの土産は人気が高い



### 大島エリア地図

- 交通案内  
東京駅からJR山手線・京浜東北線で浜松町駅へ。浜松町駅から徒歩で竹芝客船ターミナルに向かい、東海汽船に乗船。元町港、岡田港まで約1時間45分。  
または東京駅から調布飛行場（東京都調布市）まで約1時間。飛行機で大島空港まで25分。
- 問い合わせ  
大島観光協会  
<http://www.izu-oshima.or.jp/>  
グローバルネイチャークラブ  
<http://www.global-ds.com/>  
高田製油所  
<http://www.tsubaki-abura.com/>

